

令和6年度 東京都立王子特別支援学校 学校経営報告

I 目指す学校

校訓 「自立に向かって 確かな学び」を実現する学校
 「確かな学び（専門性の高い学び）」の場を構築して、地域社会と連携して児童・生徒を社会自立に導く学校

II 学校教育目標

- ・夢をもち、その実現に向かってチャレンジする意欲を育てる
- ・地域の一員として進んで社会に参加・貢献し、自立して生きる態度を育てる
- ・自らを表現し、他人を尊重し協力する社会性を育てる
- ・基本的な生活習慣を身に付け、健やかな心と体を育てる

III 重点目への取組と自己評価

◎達成 ○概ね達成 △もう一息 ×未達成

重点目標	数値目標	評価
1 安全・安心な学校づくり		
ア 校舎内外の危険個所の整備と点検を徹底する。	毎月1回	◎保護者学校評価の高評価96%。
イ チェックリストを活用して教室等の学習環境を整備する。	年3回	◎学期毎に環境チェックを実施した。
ウ 保護者と連携し、適切なアレルギー対応を行う。	アレルギー研修 年1回	◎年度当初保護者とアレルギーに対する確認を行う。研修は4月に実施した。
エ スクールバス安全運行支援員と連携しスクールバスの安全管理を実施する。	通年	◎日常的に支援員と連携。業者と月1回連絡会を開き安全管理の徹底を図った。
オ 人権に配慮した指導を徹底する。	保護者アンケート高評価90%以上	△高評価84%であり、継続の課題とする。
カ 児童・生徒への人権に配慮した言葉掛け及び「さん」付けでの呼称を徹底する。	100%	○人権に関する研修にて周知。徹底については継続課題。
キ ふれあい月間を活用したいじめ未然防止と早期発見、早期対応を実施する。	年3回	◎年3回アンケートを実施した。
ク スクールバス乗務員への人権意識向上、児童・生徒への対応等に関する研修等を実施する。	年10回	◎業者との連絡会を年11回実施した。
ケ 危機管理マニュアルに基づき、様々な想定での避難訓練及び不審者対応訓練等を実施する。	避難訓練年11回不審者対応訓練年1回	◎避難訓練12回、不審者対応訓練1回実施した。
コ 校内除菌清掃の完全実施。	実施率100%	◎学習活動に影響を与える感染症の流行なし。

サ 安全・安心な学校行事の実施。	児童・生徒、保護者 アンケート高評価 80%以上	◎全行事において無事故で実施できた。
2 児童・生徒個々の教育的ニーズに応じた教育の充実		
ア 学習者用デジタル教材の開発に関する研究指定校として検証授業を実施する。	年3回以上	◎小・中・高で、6回以上実施
イ ICTを活用した授業を推進する。	ICT活用率 100%	△保護者学校評価の高評価が73%であり、継続の課題とする。
ウ 児童・生徒用端末や統合学習支援サービス(0365)等を活用したオンライン学習を推進する。	児童・生徒の活用率 80%以上	○家庭と連携し、必要な児童・生徒に実施することができた。
エ 12年間のキャリア教育の系統性を踏まえた学習内容を策定する。	アンケート高評価 80%以上	◎保護者学校評価の高評価 89%。
オ 学部等の単位で計画的にキャリア教育に係る研修を実施する。	年2回以上実施	◎職員連絡会や学部会にて年3回実施した。
カ 生活年齢や発達段階に応じた自己理解や自己選択ができる支援・指導を推進する。	全児童・生徒の個別指導計画に明記する。	◎全学部、実態に合わせた項目にて明記し、指導した。
キ 生徒の希望や個々の力が発揮できる進路指導を実施する。	希望先への就労率 90%以上	◎生徒及び保護者の希望を確認して希望先への就労率 96%達成した。
ク 基本的な生活習慣及び基礎体力向上に向けた学習活動に取り組む。	全児童・生徒の個別指導計画に明記する。	◎全学部、実態に合わせた項目にて明記した。
ケ 栄養士と連携し、豊かな食生活を目指した食育を推進する。	食育だより発行年3回	◎年3回発行した。
コ 児童・生徒の実態に応じたSOSの出し方についての教育を各教科等において実施する。	実施実績 100%	○学校生活全体を通して、全学部で実施した。
サ 挨拶運動や花いっぱい運動の期間設定し、命や思いやりの心の育む活動を実施する。	年2回以上	◎高等部の生徒会が年3回挨拶運動を実施。学習の中で草花の栽培を実施した。
シ 性教育やがんを含む健康教育、歯科保健指導等を推進する。	歯科：年5回性教育、 がん教育：高等部2回	○歯科保健指導年4回、高等部がん教育年2回実施した。

ス 学校医や産婦人科医、心理の専門家等と連携し、児童・生徒の心身の健康等に関する相談を実施する。	年10回以上	◎心身保健相談年11回、思春期相談年12回実施した。
セ 保護者や地域を対象に王子 Cafe を実施する。	高等部各学年 年3回	◎校内の教職員、来校者を対象に実施した。
ソ 地域資源を活用した学習活動を実施する。	各学年 年3回以上	○保護者学校評価の高評価82%。
タ 近隣の小中学校、高等学校や副籍指定校との交流及び共同学習を実施する。	学校間交流回数合計年5回以上	◎交流指定校と小中学部の交流、あけぼの祭りでの高校との交流、副籍指定校との児童生徒の直接交流や間接交流が図られた。
チ 王子カルチャーロードギャラリー等、展覧会やコンクール等への出品を実施する。	計4回以上	○カルチャーロード、アートプロジェクト展等に参加した。
ツ 芸術教育推進事業に基づく東京藝術大学と連携した美術教育を推進する。	各学部での取組3回以上	○高等部美術科と連携し、校内装飾を実施した。
テ 研究主題に基づき授業改善等の協議を実施する。	年10回以上	◎毎月の研究会と縦割り分科会にて12回実施した。
ト 外部専門員によるアセスメントとカンファレンスを通して指導へ反映させる。	各学年2ケース以上	◎アセスメントとカンファレンスを年間継続して実施した。
ナ 外部専門員を活用した指導改善に取り組む。	活用率100%	◎全外部専門員の助言及び指導を児童・生徒指導や授業改善に活用した。
ニ 教員による他学部体験交流を実施する。	実施者40名以上	◎41名の体験交流を実施できた。
ヌ 各学部における通学指導計画を活用し、通学指導の推進に取り組む。	通学指導計画のステップアップの人数60名以上	◎児童・生徒204名の通学指導計画ステップアップを承認した。
3 関係機関との連携及びセンター的機能の発揮		
ア 学校ホームページや SNS 等を用いた情報発信及び広報活動を実施する。	更新計年100回以上	◎ホームページ更新167回、Xを活用した情報発信478回。
イ 出前授業や教育相談、指導助言等を通して地域	相談件数200件以上	◎進路指導担当主幹

の特別支援教育の専門性向上に寄与する。		教諭が、学区域の中学校の研究協議会講師を行ったり、コーディネーターが研修会で講演したりするなど、チームでの地域の専門性向上に努めた。
ウ 夏季休業期間に近隣の学校関係者等を対象にした研修会を実施する。	年1回	◎近隣特別支援学校と連携した研修を4回実施した。
エ 都立版エリアネットワークの拠点校としての高等学校支援を実施する。	エリア内の高等学校への支援各1回以上	○各校の事情に応じて、複数回訪問したところもあったが、一度も訪問できない学校もあった。中野特別支援学校及び中部学校経営支援センター支所と連携を取りながら、対応していく。
オ 児童・生徒に関わる機関等と円滑な連携を図る。	外部機関アンケート高評価 80%以上	◎児童・生徒のケースに応じて、子ども家庭支援センターなどの行政機関と連携を図り、情報共有のための会議を実施した。
カ 放課後等デイサービス等への安全な児童・生徒の引き渡し、および必要な情報共有や連携を図る。	年1回	○日常的なやり取りを中心に実施するとともに、連絡会等での説明及び情報共有を行った。
キ 地域の小・中学校との連合コーディネーター会議を実施し、連携を図る。	年1回	◎幼小中高のコーディネーター等連絡会を1回実施し、情報共有できた。
ク 7つの部活動を活用して、卒業後の余暇活動の充実につなげる。	大会や展示会、交流等に参加 年7回	◎全ての競技、活動ともに計画どおり実施できた。
4 組織的運営と働き方改革の推進		
ア ミドルリーダーの役割を明確にした所掌分掌の進行管理を適切に行う。	教職員アンケート高評価 80%以上	○各分掌にてミドルリーダーの意識を高められるよう、業務分担任を考慮した。

イ 分掌等の副主任に若手教員を登用し、後進を育成する。	若手教員配置 70%以上	○学級の主任任、分掌部副主任等に若手教員を起用し、OJTを促進した。
ウ 一般需用費のセンター執行率の向上に努める。	センター執行率 60%以上	○60%達成した。
エ 電話等な取次や郵便物等について、記録等を残し確実に伝達する。	保護者及び外部アンケート高評価 90%以上	◎保護者アンケート高評価 95%。
オ 学部会の形態を集合形式からオンラインや書面開催等へ置き換え、回数や時間の縮減を図る。	縮減率 50%	◎学部会や委員会で書面開催を実施した。
カ 教材作成及び評価等の文書作成に充てる時間を確保する。	月 1 回以上	○会議を設定しない日を設け、教材作成等を行える時間を確保した。
キ ライフ・ワーク・バランス、働き方改革に関する提案を管理職に行う。	100%	◎自己申告の面談で、管理職が聞き取りを実施した。
ク 月の時間外勤務を 45 時間以下にする。	100%	△各月とも時間外勤務者が複数名おり、継続の課題として取り組む。